



かんじごろうのかんたろう

かんじごろうのかんたろうは、
きょうも かんじを もとめて
たびを して います。
あるひ たちよった まちで、
かんたろうは なぞの かみを
ひろいました。



「おっ、かんじの かかれた
ちずだ。
なんと かいて あるのかな？
たからとは いったい
なんだろう...
いつて みると するか。」

本書を読みながら、漢字と読み文字が書かれた
場所をさがすことが楽しく、読者の想像力を
伸ばすことができます。